＜第41回全国豊かな海づくり大会 兵庫大会　協賛行事＞

第３回 里海カンファレンス

日本の里海
～その成立要因と多様な役割を探る～

1998年に柳哲雄 九州大学教授（当時）が提唱した「里海」＝「人手が加わることにより、生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」は瀬戸内海から国内外に広く浸透していき、注目を浴びるようになっています。

里海の提唱から20年を迎えた2018年に「里海生誕20周年記念シンポジウム」を開催した岡山県備前市日生町をはじめ、沖縄県恩納村、宮城県南三陸町、高知県大月町柏島の4つの里海は、誰もが認める日本を代表する里海ですが、社会的背景、立地条件、沿岸環境特性、漁業実態、人的資源等、多くのことが異なっており、その社会的役割などアウトプットの形もそれぞれに特徴があります。

本カンファレンスでは、これら4つの里海について、現在の里海の姿に至った経緯、持続していける要因、今後の方向性や、里海としての成立に欠かせない共通要因や個別の要因、その社会的役割や影響範囲、役割の多様化・深化などの可能性を探り、世界の閉鎖性海域における持続可能な海洋環境保全の推進に役立てていきます。

（写真：沖縄・恩納村のサンゴの養殖）

参加費無料

2022年10月30日（日）13時～17時

場　所：ラッセホール 2階 ローズサルーン

（住所）神戸市中央区中山手通4-10-8
（ウェブサイト）https://www.lassehall.com/

定　員（先着順）：会場参加※ 100名、Web参加 200名

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、Web参加のみとなる場合があります。

プログラム

13時～13時10分　開会挨拶	
13時10分～15時10分 【講演】日本の里海　－ 我が国における代表的な成功事例から －	
1 アマモとカキの里海 ～里海と里山と“まち”をつなぐ～ 岡山県備前市日生町	田中 丈裕 （特非）里海づくり研究会議　理事・事務局長
2 沖縄の里海から ～世界一サンゴにやさしい海を目指して～ 沖縄県国頭郡恩納村	鹿熊 信一郎 佐賀大学海洋エネルギー研究所 特任教授
3 里海里山ひとつながりのマンダラに学ぶ 宮城県南三陸町志津川湾	太齋 彰浩 （一社）サスティナビリティセンター 代表理事
4 科学知×在来知＋コミュニケーション力で持続可能な里海を創る 高知県大月町柏島	神田 優 （特非）黒潮実感センター センター長
15時20分～16時50分 【パネルディスカッション・総合討論】　日本の里海　～その成立要因と多様な役割を探る～	
＜コーディネーター＞ 日高 健　近畿大学産業理工学部 教授 ＜パネリスト＞ 田中 丈裕（前出）、鹿熊 信一郎（前出）、太齋 彰浩（前出）、神田 優（前出） 古川 恵太（特非）海辺つくり研究会 理事長、 鷲尾 圭司　水産大学校 元理事長	
16時50分～17時　閉会挨拶	

主催：（特非）里海づくり研究会議 、（公財） 国際エメックスセンター

後援：環境省、兵庫県、神戸市、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、（公社）瀬戸内海環境保全協会
協賛：第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会実行委員会

講演者（パネリスト）　略歴

田中　丈裕

(特非)里海づくり研究会議
理事・事務局長

NPO里海づくり研究会議 理事・事務局長。1953年大阪市生まれ。1979年に岡山県に入庁し、2008～2011年に水産課長。岡山県を退職後、海洋建設(株)水産環境研究所長を務めた後、2012年1月に“里海”の提唱者である九州大学名誉教授 柳哲雄氏、広島大学名誉教授 松田治氏らとともにNPO里海づくり研究会議を設立、現在に至る。40年以上に亘って漁業現場で実践活動・研究活動を継続中。地域活性化伝道師（内閣府）、みなとまちづくりマイスター（一般社団法人ウオーターフロント協会）。

鹿熊　信一郎

佐賀大学海洋エネルギー研究所
特任教授

佐賀大学海洋エネルギー研究センター 特任教授。沖縄県海洋深層水研究所 所長を務めた後、2019年12月から現職。専門は水産資源管理とサンゴ礁生態系保全。研究フィールドは沖縄とアジア太平洋島嶼国。これまでに、フィジー、フィリピンを中心に、12ヶ国の村落主体沿岸資源管理を調べてきた。1990年代後半に里海の提唱者である柳哲雄教授と出会い、柳教授の里海概念に共感し、以後ずっと支持し続けている。2018年に出版された「里海学のすすめ」筆頭編者。

太齋　彰浩

(一社)サスティナビリティセンター
代表理事

(一社)サスティナビリティセンター代表理事。民間機関の研究者を経て、フィールド密着型の教育を志し、南三陸へ移住。箱もの施設再生により、年間数千人の交流人口創出。東日本大震災後は、町職員として壊滅した水産業の復興に奔走するとともに「循環型でレジリエントなまちづくり」を目指した、南三陸町バイオマス産業都市構想の実現に貢献。2018年4月より現職。「森里海ひと　いのちめぐるまち」の実現を目指す。

神田　優

(特非) 黒潮実感センター
センター長

1966年高知市生まれ。高知大学農学部栽培漁業学科卒業・東京大学農学部農学生命科学専攻博士課程修了。農学博士。四国の西南端、高知県大月町柏島に“島が丸ごと博物館”という構想の元、海のフィールド・ミュージアムを作ろうと1998年単身柏島に移住し、2002年NPO法人黒潮実感センターを立ち上げる。
島の自然と人の暮らしが両立する、持続可能な「里海」づくりに挑戦している。
2012年第５回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）」など受賞多数。

コーディネーター、パネリスト　略歴

＜コーディネーター＞

日高　健

近畿大学産業理工学部
経営ビジネス学科 教授

近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科・教授、博士（水産学）
宮崎県生まれ。九州大学農学部卒業、神戸大学大学院経営学研究科修了。福岡県庁を経て、1998年から近畿大学農学部に勤務、2007年に産業理工学部に異動。
研究テーマは里海管理、沿岸域管理、漁村活性化など。特に里海については『里海と沿岸域管理』（農林統計協会、2016）、『里海マネジメント論』（農林統計協会、2022）でいかにマネジメントするかをまとめている。

＜パネリスト＞

古川　恵太

(特非)海辺つくり研究会
理事長

NPO海辺つくり研究会 理事長。東京海洋大学産学・地域連携推進機構 客員教授。徳島大学環境防災研究センター客員教授。東アジア海域環境管理パートナーシップ(PEMSEA)技術会議共同議長、東京湾再生官民連携フォーラム モニタリングＰＴ長、笹川平和財団海洋政策研究所 特別研究員（非常勤）、国土技術政策総合研究所、笹川平和財団海洋政策研究所を経て現在に至る。沿岸生態系の保全・再生や沿岸域総合管理の専門家として、東京湾再生についてのプロジェクト等において幅広く活躍中。

＜パネリスト＞

鷲尾　圭司

水産大学校
元理事長

元 水産大学校理事長。林崎漁協顧問、日本伝統食品研究会 会長、NPO里海づくり研究会議 理事。京都大学博士課程から兵庫県の林崎漁協企画研究室長に着任、漁場環境調査やノリ養殖指導、資源管理、魚食普及に尽力。明石を中心に漁業と魚食文化の発信を続け、イカナゴくぎ煮、節分の恵方巻の仕掛け人。2000 年京都精華大学人文学部環境社会学科教授、学部長。2009年水産大学校理事長に就任し、2021年まで代表を務めた。
総合海洋政策本部参与として政府の海洋政策にも尽力。

参加申込方法

※いただいた個人情報は本事業の運営管理の目的にのみ使用します。

会場参加をご希望の方

Googleフォーム（https://forms.gle/y9dFnoeQyA57dkye9）にてお申込みください。
Eメールの場合は件名を「里海カンファレンス参加申込」としていただき、下記1～3を明記の上、国際エメックスセンター　(secret@emecs.or.jp) にお申込みください。

1. 氏名（ふりがな）　2. ご所属名　3. 連絡先（Eメールアドレスおよび日中連絡可能な電話番号）

会場参加

Web参加をご希望の方

Zoomウェビナー（https://onl.sc/f6Ygjii）にてお申込みください。

Web参加

お問い合わせ先

公益財団法人 国際エメックスセンター　（担当： 細見）

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2　人と防災未来センター東館5階
TEL:（０７８）２５２－０２３４　E-mail: secret@emecs.or.jp　ウェブサイト: http://www.emecs.or.jp